

これが私の指導法 ～知的財産の継承～



朴瀬小学校
教諭

谷内由起子

本校の研究主題は「主体的に学び合う子どもの育成」です。「主体的に学習を進めていく力」と「自分の考えを広げたり深めたりする力」を育てる指導を重点に取り組んでいます。

①学習リーダーの活用 6人の児童全員が学習リーダーとして活躍できるように、日直の日に学習リーダーを務めさせていきます。毎朝、リーダーの合図で教室に掲示している国語の教材文を音読しています。音読に自信を付けるとともに読み解く力も身に付いています。声を出すことで、学級に

活気が生まれます。集会などの感想発表もリーダー役の子どもが交代で行っています。1年生なので最初は臆していましたが、今では全員が自分の言葉で発表できるようになりました。ホワイトボードに活動予定を示すと、リーダーのかけ声で取り組めるようになりました。担任が来る前に学習発表会の練習を自分たちで進めている姿に感激もしました。日常の中の主体的学び合いでの子どもたちは確実に高め合ってきています。

②短作文の取り組み 活気が字に書き表すことを継続しました。個人差が大きく対応が大変ですが、個の語彙力の高まりを感じています。今後は、本時の流れを確認しながら自分たちで学習を進めていくことができるよう育てたいと思っています。言葉を字に書き表すことを継続しました。個人差が大きく対応が大変ですが、個の語彙力の高まりを感じています。

我が校の実践

能代第一中学校
教諭 平澤 寿枝

ある刑事ドラマの中に「事件は会議室で起きているんじゃない、現場で起きているんだ!」という名台詞がある。問題を発見したら全力をあげて実質的に解決する!この主人公ほど熱くはないが、本校にも同じような感覚がある。いかか、具体的な事例をもとに考えを出し合へ、「書く分量の工夫」

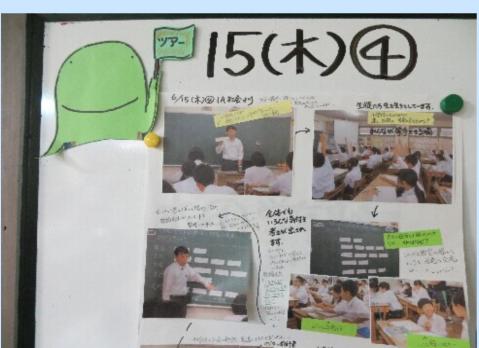
【研修のかたち】

「困り感をもつている生徒の心に寄り添う言葉かけ(OK等)」というゴールを見付けることができた。翌日から即実践である。そして、それぞれの実践の成果を「生徒を見合う会」で確認する。この会では校長と空き時間の職員とが授業を一巡し、「現場」で対話型のミニ研修を行う。教師ではなく生徒の姿を見て、私たちの実践を検証するスタイルである。

4月には、活気ある学習の雰囲

気づくりのため、「未来を掴む手」を共通実践に掲げた。肘がピソと伸び、勢いのある拳手、「ハイイッ!」と1回返事をする。それが教室でどのような効果を上げ、どのくらい定着しているのかは、生徒の姿を見れば一目瞭然である。

焦点化・視覚化・共有化。チーム能代一中の研修のかたちはUDの視点による授業づくりに似てきました。教科の壁を越えて取り組めうこと・変容が見て取れ



編 集 後 記

先月、第12回能代っ子中学生ふるさと会議が文化会館大学ホルルで開催されました。市内中学校の全2年生が集まつての開催は初めてでした。次年度にあふれた1日でした。次にありがとうございました。本当にありがとうございました。来年も1年間、よろしくお疲れ様でした。本

